

CDB シンポジウム2013 “The Making of a Vertebrate”を開催

2013年3月25日

理研 CDB は今年で第 11 回目となる国際シンポジウム“CDB Symposium”を 3 月 4～6 日に開催した。今回は “The Making of a Vertebrate”のテーマのもとに、15 カ国 181 名の研究者が集い活発な議論が交わされた。



3 日間の会期中には 94 のポスター発表と 37 の口頭発表が行われ、脊椎動物の形態形成といった長年のテーマから、細胞の幹細胞性の維持といった近年注目のテーマに至るまで幅広い研究が紹介された。研究にはマウスやヤモリ、ヤツメウナギ、ギボシムシなど多様な生物が使われ、それらの比較から脊椎動物の進化のメカニズムについて議論を交わした。

オーガナイザーは、Geneva 大学及び EPFL (Swiss Federal Institute of Technology in Lausanne) に属する Denis Duboule 教授、理研 CDB の相澤慎一グループディレクター、倉谷滋グループディレクターが務めた。2014 年のシンポジウムは“Regeneration of Organs: Programming and Self-Organization”をテーマに 3 月 10～12 日に開催予定。

